

Ⅲ. 視点 2

【視点 2】

基礎・基本を重視し、意欲的な学びを促す問題解決の場面設定や指導方法の工夫

1. 評価の充実と授業改善



子どもたちを受け身的な学びから、より主体的な学びへと変容させていくには、評価の工夫などにも目を向けた授業の改善が必要である。

学力を「関心・意欲・態度」「思考・判断」「知識・理解」「技能・表現」という4つの観点で考えると、観点それぞれを高める指導場面が必要であることは言うまでもなく、また指導したことについては、その成果を評価して次の指導に生かすことが必要である。我々教師の評価観を確かなものとし、具現化することは、同時に授業改善が行われることを意味するものととらえていきたい。

学力観の在り方に伴い、評価の充実と授業改善は表裏一体と考えると共に、評価観の在り方を窓口にして授業そのものの在り方を常に自己点検しながら、よりよい授業構築に取り組みたい。

2. 基礎・基本を重視した授業構築と意欲的な学び

(1) 基礎・基本を重視する

それぞれの教科において、「年間」「単元」「一単位時間」のレベルにおいて、基礎・基本は何かをまずは教師が明確にする必要がある。そして、その基礎・基本を子どもたちが獲得していく道筋（＝学習展開）を考えていかなければならない。基礎・基本を明確にすることは、「単元」「一単位時間」での評価規準を設定していくこととリンクし、その評価規準を評価するにふさわしい学習活動を構築していかなければならないと考える。

(2) 意欲的な学びを促す授業構築

本研究では、子どもたち自身が問題解決力を発揮しながら、基礎・基本を獲得していく学習活動を目指している。すなわち、問題解決的な学習である。

そのためには、弾力的な授業展開や教材開発の工夫、指導方法の工夫が重要となってくる。

子どもの課題意識を醸成させるための単元導入時のオリエンテーションの設定や、みんなで学ぶ意義を大切にした交流場面の設定などに取り組むことで、基礎・基本の獲得はもちろんのこと、学習意欲が高まり、より主体的な学びが生まれてくると考える。

【視点2】 基礎・基本を重視し、意欲的な学びを促す問題解決の場面設定や指導方法の工夫

実践例 中3社会

一単位時間の中で押さえなければならない目標をまず単元指導計画の中で明確にした。本単元は、実生活の中ではあまり意識することが難しい内容であるため、生徒自身が興味・関心を持って主体的に学ぼうとする意欲を引き出させる授業展開が求められる。そこで、導入のところで、生徒たちが最も興味を引く教材を用意し、授業に集中させることにした。本時では、1,000万円という現金を見せることで、お金に対する人間の欲を出させる工夫を凝らした。また、写真やグラフから日本経済が抱える問題を導き出させたり、新聞から現在の課題を抜粋し、自分なりの考えをまとめさせるように工夫をしてみた。生徒の「なんで？」といった疑問と「へえ～」といった驚き、発見を一単位時間の中にちりばめた。

学習目標		累進課税制度の意義と公正さについて考え、理解する。	
	主な学習	指導方法の工夫① ～導入～ 生徒にとって興味のあるもの（新聞記事 OHP、1,000万円の札束）を提示した。そのことにより、子どもの興味・関心が非常に高まった。	教師の関わり・評価
導入	田中投手の年俸を確認 札束を見て、いくらあるか	一千万円がどのくらいの量か確認	駒大苫小牧の田中投手の年俸 1500万円を紹介（OHP） 札束（一千万円）を提示（生徒を前に集める）
	収入（一千万円）を全額、手にする 収入から何が引かれるかを考える。	指導方法の工夫② ～意識付けの工夫～ グループ学習をするために、事前に税金が収入から引かれていく様子を見せた。（税を納めるというイメージの具現化）	給与明細を提示（OHP）
	所得税 住民税		一千万円からそれぞれ引いていく。（税を納めていることを強調）
	憲法第30条 納税の義務 納税は国民の義務であることを再確認 税金が様々な方法で徴収されていることを再確認		税の種類を提示（OHP）
課題解決	所得税の納め方について考えよう。	場面設定の工夫① ～課題設定～ ただグループで考えさせるのではなく、その立場、その人の考え方になって、話し合わせることにした。その結果、それぞれの立場（所得の違い）での発言が飛び出し、話し合いが盛り上がりつつあった。	ニセコヤンキースへの入団契
	（1）方法 源泉徴収（サラリーマン） 確定（個人事業主） （2）所得税の金額決定 年収1800万円以上 年収900万円以上 年収330万円以上 900万円未満 年収330万円未満	それぞれの立場になって、所得（年収）からどのくらい税金を納めるのが妥当か理由を合わせて考え、発表する。（グループ活動） 納税金額は下 僕は、年収5,000万円です。税金は誰からも一律に納めさせるべきです。お金持ちなのは、僕の努力の結果なんだし・・・消費税みたいに税率を固定するべきだ。平等にね！	プリント配布 グループに年俸の金額が書かれた用紙を配布 ※所得水準の高さの異なるグループを作る 班で話し合わせる



	僕は、年収 250 万円だった。税金を払ったら生活していけなさそうだよ。年収の多い人の所得にもっと税率をかけるべきだよ。絶対パターン3。これしかないよ。	私は、年収 1,000 万円です。公平性を考えるとやっぱり所得税の税率を金額によって変える方がいいと思うわ。消費税も納めているし、苦しい人も多いはずよ。 
課題 解 決	パターン1：どの人も所得から一律100万円を納税 パターン2：どの人も年収の10%の金額を一律納税 パターン3：それぞれ年収の金額にあった税率の金額を納税 パターン4：その他（もっと他に妥当と思われる方法あり） 私は、年収 500 万円です。生活を考えるとあまり税金は払えません。できれば、年収の多い人たちに多く払ってほしいです。やっぱり～	場面設定の工夫② ～グループ内での交流～ グループ内で意見交流をし、班の意見をまとめた。お互いに話し合い、整理することで班員が同じ視点に立って考えられるようになった。 【思考・判断】 公平性を考え、最も妥当な方法を発表させる。
	グループ内で、どのパターンが最も妥当な納税額か話し合う。 (グループ交流) ↓ それぞれの班からどのパターンの納税方法が妥当か発表する。 (全体交流)	【思考・判断】 公平性を考え、最も妥当な方法を発表させる。
37 分	※全体交流の中で累進課税制度が最も適した納税方法に気づく (現在の徴収方法を紹介) ●<u>所得に応じて税率を設定し徴収する</u> プリントに自分の所得にあった税率を記入 (計) 累進課税制度に対して税率が一律のものがあることを紹介 商品を購入すると同時に行う納税 消費税 酒税 たばこ税 などの間接税	場面設定の工夫③ ～全体交流～ グループ内で出た意見を全体で討議した。年収によってグループ分けをしているので、その立場になって発言する事ができ、より深い討議となった。 表 (OHP) 寸を紹介する (個人情報保護法によって長者番付も無くなってしまっていることを紹介) (収入が多いほど納税金額が多くなることに抵抗感が生じるが、「公平性」を考えたときに金額にあった税率で納入額を決定させることが最も妥当であることに気付く。)
まとめ 5 分	税は、社会資本や公共サービスを提供するために絶対必要である。よって多くの国民が納得できる方法できちんと徴収していかなければならない。累進課税制度は、この意味からも国民全体を考えた公正な制度と言える。 ※生徒同士の話し合いの中からこの考えを引き出させる。 自分の所得税を計算 納税に関して自分の考えをまとめる	教科書 p 124 政府の経済活動の確認 プリントに記入 指導方法の工夫③ ～まとめ～ 生徒の意見をフィードバックした。そして、「ワークシート」により、自分の考え、累進課税制度を整理させた。これにより理解を更に深めることができた。

【視点2】基礎・基本を重視した、意欲的な学びを促す問題解決の場面設定や指導方法の工夫

本時は、この単元の基礎・基本となる時間的・空間的な見方や考え方にふれる時間とした。導入の時間に当たる本時で、小学校までの学習内容をさらに深めるような課題を提示することで、小学校からのつながりを意識するとともに、これから学習する内容についてより関心・意欲を持つことができる工夫をした。また、課題を自ら選択し、同じ課題を持つものどうしが解決に向けて協力し合い、それぞれの課題の結果を交流することで、天文現象について調べていこうとする共通の意識を持てるよう配慮した。

本時の展開

(1) 本時の目標

- 身近な天体である太陽や月について興味・関心を持ち調べようとする。(関心・意欲・態度)

(2) 本時の展開

	主な学習内容	教師の働きかけ（●は評価規準）
課題の把握	自分の知っている身近な天体をあげてみよう。 ・地球 ・月 ・太陽 ・金星 ・火星 ・水星 ・木星 ・土星 ・天王星 ・海王星 ・冥王星 身近な太陽と月について調べよう 太陽と月について知っていることをあげる。 ・太陽：大きい、光合成、太陽電池、日食、昼、… ・月：クレーター、満ち欠け、うさぎ、… 4つの課題について、自分の興味のある課題を選択する。 クレーター 日食 夕焼け 月の満ち欠け	場面設定のポイント 《单元導入》 小学校までの既習事項から、身近な題材を取り上げ、興味・関心を引き出す ・4つの課題の中から1つを選び、自分の興味のある課題を見せよう 指導方法のポイント 《課題選択》 興味・関心を高めるための題材を選定するとともに、生徒の自己決定の場として課題を選択させる。 とする。【関：行動観察、ホワイトボード】
課題の追求	それぞれの課題について実験を行う。 粉末などへの衝突実験 モデルを利用した実験 アクリルパイプを利用した実験 モデルを利用した実験 ・水の量が多いと飛び散る ・水の量が少ないとくぼみができる ・月と太陽の距離が違う ・月が太陽と重なるとき ・水は何も混ぜないときと混ぜたときで、そのままだと通過する ・太陽と地球の間にあるとき新月になる 指導方法のポイント 《課題解決》 生徒の自己決定の場を可能にするため、実験用具などの準備など、十分な対応ができるように配慮する。	・各自使用した実験器具とホワイトボードでのまとめを有効的に使用できるよう支援する。 指導方法のポイント 《交流場面》 ホワイトボードの利用により、自分たちの結果や考えをまとめやすくさせ、全体への理解と考え方の広がりを見学的にわかりやすくする。
課題の解決	各グループが調べ、考えたことを交流する。 ・月にはたくさんの隕石などによりクレーターができた。 ・月に太陽が隠れ、日食が起こる ・大気層を通過することで、赤い光が多く現れる。 ・地球を回ることによって光が当たっていると見える 天体のモデル 地上での見え方 成因を考える 天体の距離感	指導場面のポイント 《次時以降へのつながり》 課題を解決してきたこれまでの成果をまとめることで、次時以降への関心・意欲などのつながりと単元で共通する基礎・基本を整理する。
	太陽と月について、さらに知りたいことなどをあげる。	

視点2 基礎・基本を重視し、意欲的な学びを促す問題解決の場面設定や指導方法の工夫

本単元の重要なことは、平行四辺形や三角形の面積を求めるために、「 1 cm^2 の単位面積のいくつ分」をもとに、長方形に帰着して考える図形の見方を培うことである。

本時での問題提示では、長さの入った図形や方眼入りの図形ではなく、長さの入っていない平行四辺形を提示する。これまでの学習をもとに、辺の長さや角度に目を向けたり、長方形の公式から平行四辺形の面積を求める子ども達もいると思われる。このような考え方も、否定するのではなく、辺の長さに気づいた点などを認めながら、長方形との違いに目を向けさせていく。

そのためにも、自力解決においては、図形をかいたり、用紙を切ったり、重ねるなどして、試行錯誤することを大事にする。操作活動を十分に行い、長方形へ等積変形できることを実感させることで、次時以降の意欲的な学びにつなげていく。また、早く解決をできた子については、小交流を行い、友だちの考え方を比較して、やり方は違うが長方形に等積変形していることに気づかせるように働きかけを行う。

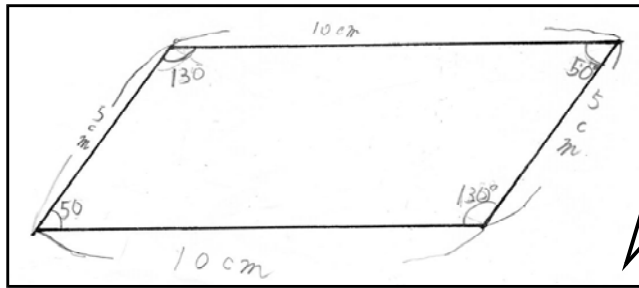
8. 本時の目標

● 平行四辺形の面積を既習の図形の求積と関連づけて求めようとしている。

● 長方形の求積方法に帰着して、平行四辺形の面積を求め方を考えることができる。

本時の展開（2 / 1 2）

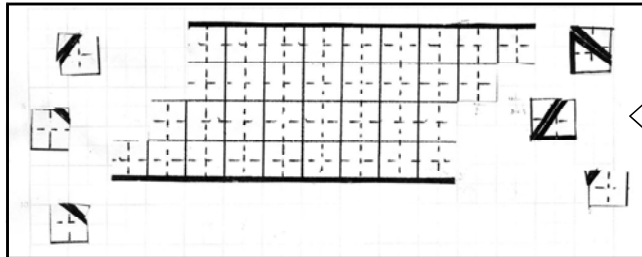
子どもの活動	教師の関わり・評価規準
○前時の学習を想起する。 ・面積は、いろいろな方法で比べることができた。 ・面積は、1 cm^2のいくつ分で言い表すことができた。	前時の内容を振り返り、
問題 平行四辺形の面積は何cm^2でしょう。 	問題提示の工夫 レディネステストの結果では「1 cm^2のいくつ分」の考え方は多くの子どもに定着していた。自力解決場面で、様々な考え方が表出してくるよう考え、問題の図形には長さや方眼を示していない。
○問題把握 平行四辺形の面積の求め方を考えよう	
○解決の見通しをもつ 長方形と同じでいいのかな 1 cm^2は、入るのかな ななめは、たてなのかな。	解決の見通しについて意見を出す中で、長方形の求積を意識させる。
○自力解決 一つのかどを切ってつけると長方形だ 二つのかどを切ると長方形と同じになるよ 半分に切ってつけると長方形だ 方眼の数がいくつあるのかな	● 平行四辺形の面積を既習の図形の求積と関連づけて求めようとしている。
	意欲的な学びを促すポイント 平行四辺形の求積の仕方を考えるのに、紙にかいたり、切ったり、重ねたりするなど、十分に操作活動をさせる。様々な試行錯誤を繰り返すなかで、長方形の求積に帰着していけるように支援を行う。



支援のポイント

長方形の面積を求める公式から、辺の長さに着目して平行四辺形の面積を求めようとした子に対して、方眼入りの図形を渡した。

その後の解決の様子を見ると、 1 cm^2 をもとにして面積を求めるようになり、辺の長さだけでは、面積が求められないことに気づいた。



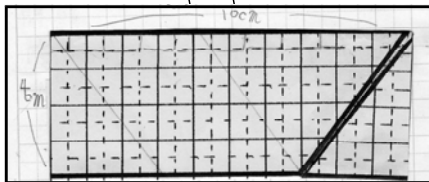
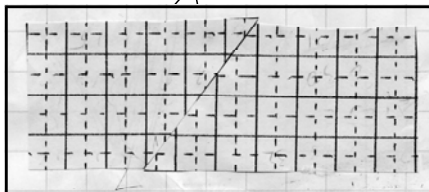
図長方形の求積方法に帰着して、平行四辺形の面積の求め方を考えている。

○小交流

同じ長方形ができている。

端を切っても長方形になるんだ。

真ん中から切って、長方形を作った。



指導方法の工夫①

小交流の中で、子ども達が、自分たちの力で解決方法を整理していけるようにネームプレートに貼って、同じ考え方、違う考え方のグループをつくる。全体交流では、そのグループをもとに練り合いを行う。

指導方法の工夫②

自分なりの考えを持った子ども達は、小交流の中で、解決方法を比べ合いながら、それぞれの考え方の共通点を見つけ出すように支援した。

○全体交流

どの考えも長方形に直している。

発表用の図形を用意し、どのように長方形に変形した方を視覚で確認できるようにしておく。

○まとめ

平行四辺形は、長方形になおすと面積を求めることができる

○学習の振り返り

- ・次に使えそうな考えはどれかな。
- ・ノートに今日の振り返りを書こう。